

2017年11月24日
クレディ・アグリコル生命保険株式会社

2017年度第2四半期（上半期）報告

クレディ・アグリコル生命（代表取締役兼CEO ジャン-ポール・ベルトラソ）の2017年度第2四半期（2017年4月1日～2017年9月30日）の業績は添付のとおりです。

<目次>

1. 主要業績	…… 1 頁
2. 一般勘定資産の運用状況	…… 3 頁
3. 資産運用の実績（一般勘定）	…… 4 頁
4. 中間貸借対照表	…… 8 頁
5. 中間損益計算書	…… 9 頁
6. 中間株主資本等変動計算書	……10頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……14頁
8. 債務者区分による債権の状況	……15頁
9. リスク管理債権の状況	……15頁
10. ソルベンシー・マージン比率	……15頁
11. 特別勘定の状況	……16頁
12. 保険会社及びその子会社等の状況	……16頁

以上

本リリースに関する問合せ先
クレディ・アグリコル生命保険株式会社 広報担当
TEL 03-4590-8426 / FAX 03-4590-8401

1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位：件、百万円、%)

区 分	2016年度末		2017年度 第2四半期（上半期）末			
	件 数	金 額	件 数		金 額	
				前年度末比		前年度末比
個人保険	—	—	—	—	—	—
個人年金保険	54,819	235,017	57,021	104.0	250,213	106.5
団体保険	—	2,457,393	—	—	2,961,607	120.5
団体年金保険	—	—	—	—	—	—

(注) 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資（変額個人年金保険については保険料積立金、据置期間付年金契約等については責任準備金）と、年金支払開始後契約の責任準備金の合計です。

・新契約高

(単位：件、百万円、%)

区 分	2016年度 第2四半期（上半期）				2017年度 第2四半期（上半期）					
	件 数	金 額			件 数		金 額			
			新契約	転換による 純増加	前年同期比	前年同期比	新契約	転換による 純増加		
個人保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
個人年金保険	7,573	30,529	30,529	—	3,002	39.6	10,574	34.6	10,574	—
団体保険	—	469,170	469,170	—	—	—	571,957	121.9	571,957	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 個人年金保険の金額は、年金支払開始時における年金原資です（変額個人年金保険については、基本保険金額）。

(2) 年換算保険料

・保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度末	2017年度 第2四半期(上半期)末	
			前年度末比
個人保険	—	—	—
個人年金保険	22,492	23,251	103.4
合計	22,492	23,251	103.4
うち医療保障・生前給付保障等	—	—	—

・新契約

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度 第2四半期(上半期)	2017年度 第2四半期(上半期)	
			前年同期比
個人保険	—	—	—
個人年金保険	2,827	849	30.0
合計	2,827	849	30.0
うち医療保障・生前給付保障等	—	—	—

(注) 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

(3) 主要収支項目

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度 第2四半期(上半期)	2017年度 第2四半期(上半期)	
			前年同期比
保険料等収入	36,825	16,176	43.9
資産運用収益	82	12,051	14,689.5
保険金等支払金	6,401	12,318	192.4
資産運用費用	15,225	3	0.0

(4) 総資産

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度末	2017年度 第2四半期(上半期)末	
			前年度末比
総資産	245,783	262,891	107.0

2. 一般勘定資産の運用状況

(1) 運用環境

2017年9月末の主要指標及び前年度末との比較は、以下のとおりです。

日経平均株価	20,356.28 円	(前年度末比 +1,447.02 円)
日本10年新発国債利回り	0.060 %	(前年度末比 Δ 0.005%)
円/米ドル相場	112.73 円	(前年度末比 +0.54 円)
円/ユーロ相場	132.85 円	(前年度末比 +13.06 円)
円/豪ドル相場	88.47 円	(前年度末比 + 2.63 円)

(2) 運用方針

当社の一般勘定では、流動性及び安全性を重視した運用を基本方針とし、預金や公社債を中心とした運用を行っております。

(3) 運用実績の概況

2017年9月末の一般勘定資産は、前年度末に比べ47.7億円増加し、238.5億円となりました。また、2017年度上半期の一般勘定の資産運用損益は+1.9億円となりました。

3. 資産運用の実績（一般勘定）

(1) 資産の構成

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度末		2017年度 第2四半期(上半期)末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	11,653	61.1	12,935	54.2
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	—	—	3,008	12.6
有価証券	5,041	26.4	4,441	18.6
公社債	—	—	—	—
株式	—	—	—	—
外国証券	5,041	26.4	4,441	18.6
公社債	4,373	22.9	3,978	16.7
株式等	668	3.5	463	1.9
その他の証券	—	—	—	—
貸付金	—	—	—	—
不動産	—	—	—	—
繰延税金資産	—	—	—	—
その他	2,384	12.5	3,471	14.6
貸倒引当金	—	—	—	—
合計	19,080	100.0	23,857	100.0
うち外貨建資産	5,537	29.0	9,548	40.0

(2) 資産の増減

(単位：百万円)

区 分	2016年度	2017年度
	第2四半期(上半期)	第2四半期(上半期)
現預金・コールローン	6,013	1,282
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	—	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	3,008
有価証券	△ 4,662	△ 600
公社債	—	—
株式	—	—
外国証券	△ 670	△ 600
公社債	△ 653	△ 395
株式等	△ 17	△ 204
その他の証券	△ 3,992	—
貸付金	—	—
不動産	—	—
繰延税金資産	—	—
その他	85	1,086
貸倒引当金	—	—
合計	1,435	4,776
うち外貨建資産	1,994	4,010

(3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区 分	2016年度 第2四半期(上半期)	2017年度 第2四半期(上半期)
利息及び配当金等収入	75	68
預貯金利息	2	0
有価証券利息・配当金	73	67
貸付金利息	—	—
不動産賃貸料	—	—
その他利息配当金	—	—
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	36
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	0	2
国債等債券売却益	—	—
株式等売却益	—	—
外国証券売却益	0	2
その他	—	—
有価証券償還益	—	—
金融派生商品収益	5	0
為替差益	—	94
貸倒引当金戻入額	—	—
その他運用収益	—	—
合 計	82	202

(4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区 分	2016年度 第2四半期(上半期)	2017年度 第2四半期(上半期)
支払利息	0	—
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	3
国債等債券売却損	—	—
株式等売却損	—	—
外国証券売却損	—	3
その他	—	—
有価証券評価損	—	—
国債等債券評価損	—	—
株式等評価損	—	—
外国証券評価損	—	—
その他	—	—
有価証券償還損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	575	—
貸倒引当金繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	—	—
その他運用費用	—	—
合 計	576	3

(5) 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2016年度末		2017年度 第2四半期（上半期）末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	—	—	2,989	31

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

(6) 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）

(単位：百万円)

区 分	2016年度末					2017年度 第2四半期（上半期）末				
	帳簿価額	時価	差損益			帳簿価額	時価	差損益		
			差益	差損				差益	差損	
満期保有目的の債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	3,573	3,803	229	243	13	3,276	3,499	222	227	5
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他有価証券	1,468	1,468	△ 0	0	0	1,163	1,164	1	1	0
公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国証券	1,468	1,468	△ 0	0	0	1,163	1,164	1	1	0
公社債	800	799	△ 0	0	0	700	701	1	1	0
株式等	668	668	—	—	—	463	463	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	5,041	5,271	229	244	14	4,440	4,663	223	229	5
公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国証券	5,041	5,271	229	244	14	4,440	4,663	223	229	5
公社債	4,373	4,603	229	244	14	3,976	4,200	223	229	5
株式等	668	668	—	—	—	463	463	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額については、該当する有価証券を保有していないため、記載しておりません。

(7) 金銭の信託の時価情報

(単位:百万円)

区 分	2016年度末					2017年度 第2四半期(上半期)末				
	貸借対 照表 計上額	時価	差損益		貸借対 照表 計上額	時価	差損益			
			差益	差損			差益	差損		
金銭の信託	—	—	—	—	—	3,008	3,008	31	35	3

(注) 差損益には当期の損益に含まれた評価損益を記載しています。

- ・運用目的の金銭の信託

(単位:百万円)

区 分	2016年度末		2017年度 第2四半期(上半期)末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	—	—	3,008	31

- ・満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託
該当項目がないため、記載しておりません。

4. 中間貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	2016年度末	2017年度	期 別 科 目	2016年度末	2017年度
	要約貸借対照表 (2017年3月31日現在)	中間会計期間末 (2017年9月30日現在)		要約貸借対照表 (2017年3月31日現在)	中間会計期間末 (2017年9月30日現在)
	金 額	金 額		金 額	金 額
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	15,303	15,583	保険契約準備金	236,780	249,178
金銭の信託	—	3,008	支払備金	591	774
有価証券	228,339	241,160	責任準備金	235,457	247,593
（うち 外国証券）	(226,987)	(239,849)	契約者配当準備金	731	810
（うち その他の証券）	(1,351)	(1,311)	代理店借	131	103
有形固定資産	4	3	再保険借	1,019	4,637
無形固定資産	295	559	その他負債	511	1,105
再保険貸	1,322	1,278	未払法人税等	113	175
その他資産	517	1,298	その他の負債	398	930
その他の資産	517	1,298	退職給付引当金	0	0
			価格変動準備金	100	104
			繰延税金負債	—	0
			負債の部 合計	238,544	255,130
			(純資産の部)		
			資本金	5,725	5,725
			資本剰余金	5,275	5,275
			資本準備金	5,275	5,275
			利益剰余金	△ 3,761	△ 3,239
			その他利益剰余金	△ 3,761	△ 3,239
			繰越利益剰余金	△ 3,761	△ 3,239
			株主資本合計	7,238	7,760
			その他有価証券評価差額金	△ 0	1
			評価・換算差額等合計	△ 0	1
			純資産の部 合計	7,238	7,761
資産の部 合計	245,783	262,891	負債及び純資産の部 合計	245,783	262,891

5. 中間損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	2016年度 中間会計期間 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)	2017年度 中間会計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
		金 額	金 額
経 常 収 益		36,908	28,229
保険料等収入		36,825	16,176
(うち 保険料)	(33,163)	(14,127)
(うち 再保険収入)	(3,662)	(2,048)
資産運用収益		82	12,051
(うち 利息及び配当金等収入)	(75)	(68)
(うち 金銭の信託運用益)	(—)	(36)
(うち 有価証券売却益)	(0)	(2)
(うち 金融派生商品収益)	(5)	(0)
(うち 為替差益)	(—)	(94)
(うち 特別勘定資産運用益)	(—)	(11,848)
その他経常収益		0	0
経 常 費 用		36,333	26,538
保険金等支払金		6,401	12,318
(うち 保険金)	(391)	(831)
(うち 年金)	(130)	(130)
(うち 給付金)	(931)	(751)
(うち 解約返戻金)	(1,908)	(3,381)
(うち その他返戻金)	(55)	(12)
(うち 再保険料)	(2,983)	(7,211)
責任準備金等繰入額		10,731	12,318
支払備金繰入額		258	182
責任準備金繰入額		10,472	12,135
資産運用費用		15,225	3
(うち 支払利息)	(0)	(—)
(うち 有価証券売却損)	(—)	(3)
(うち 為替差損)	(575)	(—)
(うち 特別勘定資産運用損)	(14,648)	(—)
事業費		3,334	1,739
その他経常費用		640	158
経 常 利 益		574	1,690
特 別 損 失		3	3
価格変動準備金繰入額		3	3
契約者配当準備金繰入額		444	972
税引前中間純利益		126	714
法人税及び住民税		110	192
法人税等合計		110	192
中間純利益		16	521

6. 中間株主資本等変動計算書

2016 年度中間会計期間

(2016 年 4 月 1 日から 2016 年 9 月 30 日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本					株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算差額等 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計				
当期首残高	5,725	5,275	5,275	△ 4,070	△ 4,070	6,929	0	0	6,929
当中間期変動額									
中間純利益	—	—	—	16	16	16	—	—	16
株主資本以外の項目の当中 間期変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	1	1	1
当中間期変動額合計	—	—	—	16	16	16	1	1	17
当中間期末残高	5,725	5,275	5,275	△ 4,054	△ 4,054	6,945	1	1	6,946

2017 年度中間会計期間

(2017 年 4 月 1 日から 2017 年 9 月 30 日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本					株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算差額等 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計				
当期首残高	5,725	5,275	5,275	△ 3,761	△ 3,761	7,238	△ 0	△ 0	7,238
当中間期変動額									
中間純利益	—	—	—	521	521	521	—	—	521
株主資本以外の項目の当中 間期変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	1	1	1
当中間期変動額合計	—	—	—	521	521	521	1	1	522
当中間期末残高	5,725	5,275	5,275	△ 3,239	△ 3,239	7,760	1	1	7,761

注記事項

(中間貸借対照表関係)

2017年度中間会計期間末

1. 会計方針に関する事項

(1) 有価証券(金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む)の評価基準及び評価方法

① 売買目的有価証券

売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)

② 責任準備金対応債券

「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法(利息法)

責任準備金対応債券は、流動性ならびに時価変動を管理する観点から通貨別に小区分を設定し、各小区分の資産および負債の将来キャッシュ・フローまたはデュレーションを一定のレンジに収めることにより、金利変動リスクをコントロールすることを目指したマッチング運用を行っております。また、責任準備金対応債券と責任準備金の残高およびデュレーションが一定幅の中で一致していることを、定期的に検証しております。

責任準備金対応債券の当中間期末における貸借対照表計上額は、3,276百万円、時価は3,499百万円であります。

③ その他有価証券

その他有価証券は9月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法)によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は時価法によっております。

(3) 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法(平成28年4月1日以降に取得した附属設備、構築物については定額法)によっております。

(4) 無形固定資産の減価償却の方法

ソフトウェア 利用可能期間に基づく定額法によっております。

(5) 外貨建資産等の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、9月末日の為替相場により円換算しております。

(6) 引当金の計上方法

① 貸倒引当金

貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて引当を行っております。

② 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、企業会計基準第26号「退職給付に関する会計基準」に定める簡便法(企業年金制度における直近の年金財政計算上の数理債務をもって退職給付債務とする方法)により、当中間期末における退職給付債務及び年金資産の見積額に基づき計上しております。

(7) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

(8) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産にかかる控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、当中間期に費用処理しております。

(9) 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。

① 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式(平成8年大蔵省告示第48号)

② 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

2. 特別勘定を含む主な金融資産及び金融負債にかかる貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預貯金	15,583	15,583	-
金銭の信託	3,008	3,008	-
有価証券	241,160	241,382	222
売買目的有価証券	236,718	236,718	-
責任準備金対応債券	3,276	3,499	222
その他有価証券	1,164	1,164	-
金融派生商品 資産	0	0	-
(ヘッジ会計が適用されていないもの)	0	0	-

(1) 現金及び預貯金

預貯金は短期間で決済されるもので、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

有価証券は「(3)有価証券」の記載のとおりであります。また、デリバティブ取引は「(4)金融派生商品」に記載のとおりであります。

(3) 有価証券

- ・ 市場価格のある有価証券
9月末日の市場価格等によっております。
- ・ 市場価格のない有価証券
合理的に算定された価額による評価を行っております。

(4) 金融派生商品

為替予約取引の時価については、先物為替相場により算出した理論価格によっております。

3. 保険業法第118条に規定する特別勘定資産の額は240,478百万円であります。なお、負債の額も同額であります。

4. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

イ.	当期首現在高	731	百万円
ロ.	当中間期契約者配当金支払額	893	百万円
ハ.	利息による増加等	-	百万円
ニ.	契約者配当準備金繰入額	972	百万円
ホ.	当中間期末現在高	810	百万円

5. 売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有している資産は、消費貸借契約で借りている有価証券であり、当中間期末に当該処分を行わずに所有しているものの時価は、234百万円であり、担保に差し入れているものの時価は、234百万円であります。

6. 保険業法施行規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下「出再責任準備金」という)の金額は3,420百万円であります。

7. 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当中間期末における当社の今後の負担見積額は354百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。

8. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

(中間損益計算書関係)

2017年度中間会計期間

1. 有価証券売却益の内訳は、外国証券 2 百万円であります。
2. 有価証券売却損の内訳は、外国証券 3 百万円であります。
3. 責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は 3,395 百万円であります。
4. 利息及び配当金等収入の内訳は、以下のとおりであります。

預貯金利息	0	百万円
有価証券利息・配当金	67	百万円
貸付金利息	-	百万円
不動産賃貸料	-	百万円
その他利息配当金	-	百万円
計	68	百万円

5. 1 株当たり中間純利益は 4,556 円 44 銭であります。なお、潜在株式が無いため、潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益は算出しておりません。
6. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

(中間株主資本等変動計算書関係)

2017年度中間会計期間

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当期首 株式数	当中間期 増加株式数	当中間期 減少株式数	当中間期末 株式数
発行済株式				
普通株式	114	—	—	114

2. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

(単位：百万円)

		2016年度 第2四半期(上半期)	2017年度 第2四半期(上半期)
基礎利益	A	615	1,931
キャピタル収益		6	40
金銭の信託運用益		—	36
売買目的有価証券運用益		—	—
有価証券売却益		0	2
金融派生商品収益		5	0
為替差益		—	94
その他キャピタル収益		—	△ 94
キャピタル費用		3	4
金銭の信託運用損		—	—
売買目的有価証券運用損		—	—
有価証券売却損		—	3
有価証券評価損		—	—
金融派生商品費用		—	—
為替差損		575	—
その他キャピタル費用		△ 572	1
キャピタル損益	B	2	35
キャピタル損益含み基礎利益	A + B	618	1,967
臨時収益		—	—
再保険収入		—	—
危険準備金戻入額		—	—
個別貸倒引当金戻入額		—	—
その他臨時収益		—	—
臨時費用		43	276
再保険料		—	—
危険準備金繰入額		43	276
個別貸倒引当金繰入額		—	—
特定海外債権引当勘定繰入額		—	—
貸付金償却		—	—
その他臨時費用		—	—
臨時損益	C	△ 43	△ 276
経常利益	A + B + C	574	1,690

8. 債務者区分による債権の状況

該当項目がないため、記載していません。

9. リスク管理債権の状況

該当項目がないため、記載していません。

10. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項 目	2016年度末	2017年度 第2四半期(上半期)末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	8,507	9,335
資本金等	7,238	7,760
価格変動準備金	100	104
危険準備金	1,003	1,279
一般貸倒引当金	—	—
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	△0	0
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	165	190
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
持込資本金等	—	—
控除項目	—	—
その他	—	—
リスクの合計額		
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	868	1,158
保険リスク相当額 R1	465	628
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	368	478
予定利率リスク相当額 R2	0	0
最低保証リスク相当額 R7	3	3
資産運用リスク相当額 R3	100	166
経営管理リスク相当額 R4	28	38
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,958.3%	1,611.8%

- (注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条、第190条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。
 2. 「最低保証リスク相当額」は、標準的方式にて算出しています。
 3. 「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は平成23年金融庁告示第25号第1条第1項第1号に規定する額を記載しています。

1 1. 特別勘定の状況

(1) 特別勘定資産残高の状況

(単位：百万円)

区 分	2016年度末		2017年度 第2四半期(上半期)末	
	件数	金額	件数	金額
個人変額保険		—		—
個人変額年金保険		227,203		240,478
団体年金保険		—		—
特別勘定計		227,203		240,478

(2) 保有契約高

- ・個人変額保険
該当項目がないため、記載しておりません。

- ・個人変額年金保険

(単位：件、百万円)

区 分	2016年度末		2017年度 第2四半期(上半期)末	
	件数	金額	件数	金額
個人変額年金保険	52,315	226,809	54,712	239,132
合計	52,315	226,809	54,712	239,132

1 2. 保険会社及びその子会社等の状況

該当項目がないため、記載しておりません。